

令和5年度 第3回学校運営協議会 報告

【日 時】 令和6年2月6日（火） 13時35分～15時30分

【会 場】 さいたま市立和土小学校 多目的室

<次 第>

1 開会

2 あいさつ（校長より）

3 授業参観

4 学校評価について

（1）児童・保護者・職員による学校評価報告（教頭より）

（2）学校自己評価結果について（校長より）

（3）学校運営協議会による評価について

- ・学校評価の児童のアンケート「学校へ行くのが楽しい」の結果はコロナ禍が終わり多くの行事が行われるようになったことも関係あるのではないかと。子どもが苦手とすることがある日は気が進まないこともある。また、アンケートを取る前後の行事等により、結果が変わることもあるのではないかと。思う。
- ・（スクールダッシュボードでの）タブレットの使用で、先生が変わっても、共通のデータとして児童の様子をつかむことができるようにしてほしい。
- ・データを見ても、そのデータの捉え方が人によって変わらないようにしていくことを大切にしてほしい。
- ・一番大切なのは人と人との接し方であると思う。
- ・単学級の学校なので、どうしても学級での人間関係がマンネリ化しやすい。1年ごとに新鮮な人間関係でいられるようになってほしい。

5 令和6年度学校運営に関する基本的な方針の仮承認について（校長より）

- ・学校教育目標、目指す学校像、目指す教師像、学校経営方針、学校経営方針の具現化について説明し、出席委員より仮承認を得た。

6 開校150周年記念事業会計報告（教頭より）

7 熟議「和土地域で育つ子どもたち」

前回までの内容（それぞれの立場で、和土っ子または岩槻の子が、10年後、20年後、30年後どんな大人になってほしいか。どんな人間になってほしいかを考え、それぞれの立場で、和土っ子または岩槻の子の現状について考えたことと、児童の発表を聞いて、地域、家庭、学校それぞれで大事にしていきたいことをグループごとに話し合い、それぞれの発表を聞き、大事に

していきたい願いを共有する。)を踏まえて、地域、家庭、学校の役割を明確にする。

- (1) 地域、家庭、学校の3つのグループに分かれ、それぞれが担うこと、取り組むことを3つほど考え、書き出す。
- (2) それぞれ理由とともに発表し、他のグループの意見を聞き、変更等を行う。
- (3) それぞれ取り組んでほしいこと、願いを示す。

- 地域
- ・子どもの安全のための声かけが大切である。登下校時、大人からあいさつをする。子どもの心を開くことにつながる。また、防犯の観点から、知らない人にも声をかける。その積み重ねが地域の安全の基礎になると考えているので、あいさつや声かけをしていくとよい。
 - ・地域との交流、自治会の行事、米作り、芋ほり、夏祭りなど子どもといっしょにできることがよい。よい思い出を積み重ね、子どもが将来この地域に住みたいと思えるようにしたい。
 - ・あいさつは、家の中でできないことは、外でもできない。そのため、あいさつは積極的に取り組みたい。
- 家庭
- ・家庭内で子どもに常に目を配る。時代の変化で一緒にいる時間が取りにくいことはあるが、子どもの状態には気づきたい。
 - ・家庭内の教育において、人間としての基本的な部分を大事にする。人に迷惑をかけないなどは徹底した上で、それぞれの家庭の方針で取り組むようにしてほしい。
 - ・他の家庭の子どもであっても、悪いことは注意できる雰囲気大切にしたい。各家庭での基本的な教育ができていれば、トラブルにはならないはず。地域の中で、子どもが誤った行動をとっている時に注意するには、大人も勇気が必要であるし、大人の在り方も大切である。
- 学校
- ・子どもの学びを支える核になる。(教員、保護者、地域、施設、専門家が関わり、異学年での交流や、学校内だけでなく、関りを広げて人との交流を進めるようにすることがこれからの学校に必要と考える。
 - ・多くの人と関われる子どもを育てるために、関われる力を育てていくことも大切である。

8 情報交換

9 閉会